

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	外島 裕	所属	日本大学
研究会等名称	心理学による社会実装研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 6名 (うち認定心理士 1名)</p> <p>非会員 7名 (うち認定心理士 1名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>集会の目的</p> <p>心理学の知見を産業・労働分野に応用し、社会実装として発展させる。当該研究会では産業・労働分野で社会実装を目指して行われた過去の研究を回顧し、さらに当該研究会の構成員が実際に試みた「現場研究」を発信し、これらの研究成果の社会実装の可能性について討論する。</p> <p>活動内容</p> <p>日本応用心理学会第 87 回大会にて、自主企画ワークショップ「心理学における実践 第 2 報：心理学の社会実装をめざして」を Zoom meeting (ウェビナー) で行った (2021 年 8 月 28 日、午後 4 時～5 時 30 分)。企画・司会は田中堅一郎、話題提供者 (話題内容) は以下の通り：稲葉 隆 (色彩と感触をテーマとした「現場」の問いと心理学的研究)、小林敦子 (認知的複雑性の研修がジェンダー・ハラスメントを低減する)、二瓶 哲・岡本祐介* (「いい仕事は、いい環境から」本音で会話ができる職場環境づくりに向けて)。このワークショップに先立つ打ち合わせが、2021 年 8 月 21 日に対面形式と Zoom meeting 併用で行われた (於；日本大学通信教育部 3 号館)</p> <p>研究会構成員の研究進捗報告ならびに討論会が、対面と Zoom meeting を併用して行なわれた (日時：2 月 26 日(土)の午後 1 時から 4 時 30 分まで、会場：アルカディア市ヶ谷)。</p> <p>集会の成果</p> <p>①構成員である宮入小夜子が、東日本旅客鉄道が推進している「チャレンジ・セイフティ (CS 運動)」の活性化を推進するためのコンサルティングを行った。成果は以下の論文に纏められた：宮入小夜子 (2022). 「心理的安全性」は職場の安全行動を促進するのか ～安全の活動の促進要因および活性化指標の検討～ 開智国際大学紀要, 21, 161-167.</p> <p>②構成員である小林敦子と田中堅一郎が、「ジェンダー」という用語を使わずに、認知的複雑性を上げる訓練を行うことによって、ジェンダー・ハラスメントを低減する試みを、中小企業の企業研修の一環として行った。成果は以下の論文に纏められた：Kobayashi, A. & Tanaka, K. (in press). Cognitive complexity training reduced gender harassment in a small Japanese company. <i>Japanese Psychological Research</i>.</p> <p>③構成員である二瓶哲が、プラス株式会社ファニチャーカンパニーと共同で職場におけるインフォーマルコミュニケーション促進のための事業を計画中である。</p>		

* 非構成員 (所属；プラス株式会社ファニチャー事業部)

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
心理学における社会実装				
研究集会開催日： 2022年 2月 28日(土)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	外島 裕 (Zoom参加、話題提供者)	日本大学	○	なし
2	田中堅一郎 (会場参加、話題提供者)	日本大学大学院総合社会情報研究科	○	なし
3	小林敦子 (会場参加、話題提供者)	川越市男女共同参画審議会	○	なし
4	二瓶 哲 (会場参加、話題提供者)	(株) タップクリエート	○	あり
5	赤塚 肇 (会場参加)	鉄道総合技術研究所	×	なし
6	西山浩次 (会場参加)	(株)リクルートマネジメントソリューションズ	×	なし
7	稲葉 隆 (会場参加)	(株) 日本カラーデザイン研究所	×	なし
8	村田教枝 (Zoom参加)	(株) タップクリエート	○	なし
9	白取敏江 (Zoom参加)	青森中央短期大学	×	なし
10	山田智之 (Zoom参加)	上越教育大学大学院学校教育研究科	○	なし
11	宮入小夜子 (Zoom参加、話題提供者)	開智国際大学国際教養学部	×	なし
12	室賀雅之 (会場参加)	東京地下鉄株式会社	×	あり
13	伊藤美奈子 (Zoom参加)	独立行政法人 国立病院機構相模原病院	×	なし
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				

(様式5)

2022年 4月 14日

日本心理学会研究会 年度会計報告書

研究会名称 心理学における社会実装研究会

研究会番号 21008

助成金額 ¥20,000

年月日	項目	金額
2022年2月25日	通信費(代表:外島裕宛)	¥210
2022年2月25日	通信用ケーブル	¥614
2022年2月25日	プリンターインクジェット	¥595
2022年2月26日	会場費(アルカディア市ヶ谷)	¥18,513
2022年3月25日	返金(日本心理学会)	¥68
支出合計		¥20,000